

農業委員会 活動日誌

農業委員会は、地域の農政を推進するため、様々な取り組みを実施しています。

ここでは、これまでの農業委員会活動について、お知らせいたします。

農業委員研修会開催

最近の農業委員会

をめぐる情勢に

ついて学ぶ

1月31日、農業委員会総会後に、農業委員研修会を開催しました。

研修会では秋田県農業会議より講師を招き、最近の農業・農村をめぐる情勢と農業委員会の役割について、また、平成21年に改正された新たな農地制度における農業委員会の対応などについて再確認しました。

また、今話題となっているTPPなど、日々諸政策が変化している中、農業委員会も情報の収集と提供を基本に、農業者の農業経営の安定につなげていくための取り組みを強化してまいります。



お気軽にご相談ください！

農業委員は農家の目線に立って、次の相談をおこなっています。

相談内容

- 経営規模拡大
- 農地を売りたい
- 農地の貸し借り
- 農地転用
- 農業者年金
- 農地と税金
- 相続と農地

農業委員は、農業者の代表として、また地域の世話役として皆さんからのご意見・ご要望・ご質問に応えていきます。

また、相談内容については、秘密を守りますので気軽にご相談ください。

食育を考える

3月10日、「第5回横手食育見聞録作文・図画コンクール」の表彰式が行われました。このコンクールは、毎年、市内の小学5年生を対象に市・教育委員会と協力し、農業体験や農作物に対する思いを作文・図画にしていたいたものです。作文が百六十四点、図画が二百五十八点の応募があり、審査結果は次のとおりとなりました。

農業委員会では、「食育」の必要性と重要性を認識し、「健康で豊かな人間形成と食糧自給率の向上」に向け、このコンクール作品を広く活かしていきたいと考えております。

作文の部

最優秀賞

吉田小学校

5年 佐藤 あすみさん

優秀賞

横手南小学校

5年 大山 美月さん

横手南小学校

5年 江畑 伸之介さん

吉田小学校

5年 佐々木 柚香さん

南小学校

5年 佐藤 佑実佳さん

山内小学校

5年 高橋 彩さん

図画の部

最優秀賞

朝倉小学校

5年 浪華 拓斗さん

優秀賞

黒川小学校

5年 藤原 花野子さん

浅舞小学校

5年 佐々木 優さん

南小学校

5年 佐藤 可南子さん

南小学校

5年 佐藤 千裕さん

田根森小学校

5年 戸田 明穂さん



第5回食育見聞録 作文・図画コンクール

図画の部

最優秀賞作品



朝倉小学校
浪華 拓斗さん

作文の部

最優秀賞作品



吉田小学校
佐藤あすみさん

笑顔の食卓

「さあ、いっぱい食べなさい。新しい野菜とごはん。」

食事のたびにおばあちゃんがこう言います。わたしの家の食事にはおいしいごはんがたっぷりの野菜が必ず出てきます。それを家族みんなが残さず食べています。

家の前には畑があり、おじいちゃんとおばあちゃんがいろんな野菜を育てています。ほうれんそう、トマト、レタス、きゅうり、ピーマン、白菜、大根などの季節の野菜が登場します。わたしと妹も種まきをしたり収穫をしたりしています。自分で植えると野菜の成長がとても気になります。大きく育ってほしい、おいしくなってほしいと思って見えます。農家の人もきつと同じ気持ちなのだろうと思います。

夏休みになると、近所の人がしゃがいてもほりにさそってくれます。暑いし、土もいっぱいつくけど、毎年楽しみにしています。収穫したじやがいもをたくさんもらって来て、カレーやポテトサラダ、肉じゃがなどを作ります。自分たちがほつたいものは特別おいしく感じて、いつもよりいっぱい食べます。

田んぼは親せきにたのんでやってもらっていますが、田植え機やコンバインに乗せてもらった時は楽しかったです。学校でもどろんこになって田植えをしたり、カマを片手に稲かりをしたりしています。わたしはごはんが大好きなので、毎年おいしいお米ができるのを楽しみにしています。

このように農業はわたしにとってとても身近で大切なものです。でも、少し心配になる時があります。農業をする人や農地が減少しているからです。そして外国からの輸入が増えているからです。輸入した食べ物とはたてではないし、農薬も使われています。おいしくて安全なものを食べるためにも、日本の農業を守ってほしいです。育てる喜びを味わって笑顔で食卓を囲めたいなと思います。

編集後記

昨年は、低温・猛暑による生育の遅れ、作柄不良。特に品質低下、そして米価の低迷。それに追い打ちをかけるように突然のT.P.P参加表明と散々だった。来る年こそ良き年であるようにと妻と元旦お参りに出掛けた。喜んだのはつかの間。正月3日を過ぎるとあっという間に記録的な豪雪となった。被害は四八豪雪より大きいとみている。平成22年の農業はまさに異常の年であった。T.P.P参加交渉は単に農業問題だけではない。第一次産業が国のお荷物と言わんばかりで国民の中に対立構造を作っているとも言われている。これこそ皆で熟議が必要だろう。

一日と日足が伸びてきた今日この頃、冬至のことを「一陽来復」(悪いことの後によく良い方向に向いてくれること)と書いていたの思い出す。本年はそうであってほしいと願わずにはいられない。

農政情報策定委員

増田地区 平良木 保

農政の動きを キヤッチ!

全国農業新聞

- 発行日 毎週金曜日
- 購読料 1カ月600円
- 申し込み先

地域局産業建設課
又は農業委員会事務局まで!